

平成 2 9 年度
病院事業計画について

- 1) 病院事業計画のまとめ
- 2) 直近 5 年の経営実績



平成30年10月1日

荒尾市民病院 経営企画課

◆目 次

1 章 病院事業計画のまとめ

＊年度当初の目標値と実績の比較

1) 主な取り組み 【1】

2) 医業収益の確保 【2】

i) 患者数等

ii) 診療単価のUP

3) 経営の効率化 【4】

i) 人件費の適正化

ii) 材料費の削減

iii) 戦略的経営の実施

2 章 直近5年の経営実績

＊黒字自治体病院との比較（医業利益がある病院）

1) 主な経営指標の推移（グラフ） 【7】

2) 診療実績 【13】

3) 決算状況 【14】

＊主な数値は決算統計を基に算出しています。

1 章 病院事業計画のまとめ

1) 主な取り組み

総 評

今年度の主な取り組みとして、下記の3つを主に実践し、結果を残す事ができたと思う。

また、経営においては平成21年度より毎年単年度黒字を計上しており（平成26年度は会計制度の変更により赤字であったが、実質黒字である。）、本年度は前年度と比べ外来収益で約26,695千円の減収となったが、入院収益で約41,305千円の増収があったため、290,372千円の純利益を計上することができた。

累積欠損金は、平成20年度に最大4,255,501千円あったが、毎年度順調に解消しており、本年度末には973,548千円まで減らすことができた。

今後も継続して第二期中期経営計画を基に、地域完結型医療の提供体制の維持、また、新病院建設へ向けて、収益の確保と費用削減を徹底し、経営の健全化を目指す。

1)病院建設地決定

新病院建設に向けて基本計画(案)の見直し

平成29年9月4日、荒尾市議会において荒尾市長より新病院建設地について、「市民病院敷地とその隣接地（現地）」とすることを表明されました。

また、10月には市民への説明会を実施されました。

それに伴い、院内では平成27年1月に「荒尾市民病院あり方検討会」より答申されました「新病院建設基本計画(案)」を時点修正するために、院内ワーキンググループを再編成し、修正や検討を実施しているところである。

2)職員確保

医師数50名熱望

将来職員の確保

医師については、血液内科、整形外科、麻酔科の常勤医師が各1名入職し、合計医師数が41名となった。また、基幹型臨床研修病院として3名、協力型として7名の研修医を受け入れることができた。

そのほか、奨学金制度活用において、奨学生として医学生12名、看護学生17名への貸付けを継続しているところである。

3)高度な医療の提供

医療情報システム更新及び80列CTの導入

医療情報システム（電子カルテ及び医用画像情報管理システム）を更新することで、診療の精度向上及びスピードアップ、効率化による患者サービスに結び付いていると考える。

さらに、救急部門へ16列CTより早く高画質高精細な画像が得られる80列CT装置に更新することで、より高度な医療の提供につながった。

1 章 病院事業計画のまとめ

2) 医業収益の確保

i) 患者数等

区分	平成28年 実績 A	平成29年 目標 B	平成29年 実績 C	前年実績 対 差引 C-A	目標 対 差引 C-B
入院患者数	227.5 人/日	237.0 人/日	229.4 人/日	1.9 人/日	△ 7.6 人/日
新規入院患者数	3,876 人	—	3,979人	103人	—
年間平均在院日数	16.0日	15日未満	16.0日	0.0日	△1.0日
入院診療単価	47,288円	47,823円	47,383円	95円	△440円
外来患者数	370.0 人/日	370.0 人/日	355.6 人/日	△ 14.4 人/日	△ 14.4 人/日
外来診療単価	17,400円	17,509円	17,721円	321円	212円
病床利用率(274床)	83.0%	86.5%	83.7%	0.7%	△2.8%
(256床)	88.9%	92.6%	89.6%	0.7%	△3.0%

*274床・・・許可病床 *256床・・・実稼働病床

入院について、平成29年度の1日平均患者数（24時時点）は前年度比1.9人プラスの229.4人となった。新規入院患者数では、前年度比103人プラスの3,979人となり、病床利用率においても前年度比0.7ポイントプラスの83.7%（274床）となった。

また、患者1人1日当たりの診療単価は、前年度比95円プラスの47,383円となり、年間平均在院日数以外は、前年度を上回る良い結果となった。しかし、予算目標値との比較では、1日平均患者数において7.6人マイナス、診療単価において440円のマイナスとなり、年間平均在院日数においては1.0日届かず目標値を達成することはできなかった。

外来について、平成29年度の1日平均患者数は前年度比14.4人マイナスの355.6人に留まった。原因として、28年度外来は、循環器内科を中心に大牟田地域からの紹介患者数が例年よりある事情により大きく増加したことによるものである。

また、診療単価は前年度比321円プラスの17,721円となり、売上の的には、患者数のマイナスを診療単価のプラスで多少補った形となった。

予算目標値との比較では、1日平均患者数において14.4人マイナス、診療単価では、212円プラスとなった。

1 章 病院事業計画のまとめ

2) 医業収益の確保

ii) 診療単価のUP

①DPCの機能評価係数UP

区分		H28.4	H29.4	H30.4	前年増減
基礎係数		1.0296	1.0296	1.0314	0.0018
暫定調整係数		0.0199	0.0199	-	▲ 0.0199
機能評価係数Ⅱ	小計	0.06538	0.06550	0.08802	0.0225
機能評価係数Ⅰ	小計	0.2027	0.2107	0.2413	0.0306
合計		1.3176	1.3257	1.3607	0.0350
参考	公立玉名中央病院	1.3353	1.3296	1.3739	0.0443
	大牟田市立病院	1.3915	1.3820	1.4260	0.0440
	公立八女総合病院	1.3866	1.3991	1.4778	0.0787
	筑後市立病院	1.3198	1.3109	1.3866	0.0757
	福岡市民病院	1.3380	1.3413	1.3819	0.0406

平成30年度診療報酬改定に伴い、DPC制度の医療機関別係数の整備が行われ、暫定調整係数の廃止に伴う機能評価係数Ⅱへの置き換えや基礎係数の見直しが行われた。

その結果、暫定調整係数の0.0199が廃止に伴いダウン、基礎係数0.0018、機能評価係数Ⅱ0.0225が置き換えによりアップとなった。

また、機能評価係数Ⅰでは、病棟薬剤業務実施加算1の施設基準取り下げによるダウンがあったものの、医療安全地域連携加算1や抗菌薬適正使用支援加算の新規取得等により、差し引き0.0306のアップとなった。

これらの結果、30年度4月時点の医療機関係数は1.3607となり、前年同月比0.0350アップとなった。因みに、「参考」に示す近隣の5自治体病院についても、医療機関係数はアップしている。

収益確保において、医療機関別係数をアップ又は維持することは必須課題で、今後も施設基準の取得などにより、診療内容を充実させていかなければならない。

②在院日数の短縮

(日)

区分	H28	H29目標	H29	前年増減
平均在院日数	16.0	15日未満	16.0	0.0
新規入院患者(人)	3,876	-	3,979	103
退院患者数(人)	3,878	-	3,990	112

本年度は、前年と比較して新規入院患者数は103人、退院患者数は112人と共に増加している。しかし、平均在院日数は昨年と同じ16.0日となり短縮することができず、目標数である15日未満にも1.0日及ばなかった。

目標値である15.0日未満を目指すには、パスの充実・実施や退院支援の強化等により回転率を向上させる必要がある。

ただし、新規入院患者数が同じなら、平均在院日数が短くなる分、病床稼働率も落ち、売上も落ちる。経営的視点から理想を言えば、平均在院日数の短縮を図りつつ、新規入院患者数を増やし、病床稼働率を維持しつつ回転率を上げていくことで、患者1人1日当たりの単価を上げ、「効率的な経営」により、売り上げ増に繋げていかなければならない。

1 章 病院事業計画のまとめ

3) 経営の効率化

i) 人件費の適正化

①看護部 病棟勤務者への2交代制勤務導入に向けた試行開始

現在、看護職者の勤務形態では、2交代制が主流となっており、当院内においても2交代制を希望する職員が増えてきた。また、毎年、多くの看護職を募集しているが、募集人員を満たせない状況が続いている。看護学生が就職先を選択する条件の一つとしても、勤務形態は重要視されており、2交代制勤務が普及し、2交代制勤務を希望している人が増えている状況である。

このような中、本年度、3つの病棟において2交代制勤務導入に向けた試行として、2交代制勤務を開始した。目的として、①深夜通勤の不安を解消、②休みの時間を集約、③夜勤の回数を減らし生活パターンを安定化、④勤務の調整・管理を簡易化（病院側）⑤人員調整を簡易化（病院側）等を掲げて取り組みを始めた。

試行開始後、まもなく、中間評価として、試行中の職員へのヒアリングや看護管理職層での協議を行い、概ね問題無く運用できていると判断している。

当初の目的には掲げていないが、2交代制勤務を開始したことで、下記表のとおり、時間外勤務の縮減効果も大きく現れている。

所属 (試行開始した病棟)	月平均残業時間の状況			
	試行前の期間	試行後の期間	増減	
北1階病棟	98.8 時間	32.0 時間	▲66.8 時間	67.6% 減
北2階病棟	16.6 時間	12.0 時間	▲4.6 時間	27.7% 減
北3階病棟	377.8 時間	184.0 時間	▲193.8 時間	51.3% 減

*年末年始(12月,1月)は、特別な勤務があるため、除外しています。

今後は、試行部署をさらに増やし検証すること、長時間勤務に対する体制の整備や職員の健康状態を含めた評価を行っていく必要があり、特に健康状態の評価については時間をかけて行っていく必要があると考える。

本格導入を行うにあたり、スムーズに移行ができるよう時間をかけて慎重に検証を行いたい。

②病棟メッセンジャー業務等に関するシルバー人材センターとの契約

近年の看護助手不足に対しては、労働条件の改定等行ってきたが、なかなか解消できない状況が続いている。これは、当院に限ったことではなく、他の病院でも同じ問題を抱えている状況である。

本年度、当院では、対策として、病棟業務の整理を行った上で、新たにメッセンジャー業務要員を配置し、看護助手の業務とメッセンジャー業務要員の業務を棲み分けした。

この新たなメッセンジャー業務については、荒尾市シルバー人材センターと契約し、継続的に要員を配置した。

メリットとして、新たな職を創出したことで、退職後の年齢層（65歳以上）の方を積極的に活用し、高齢者への雇用を確保できたこと、また、欠員する状況になっても、補充要員をすぐに配置して頂いていることにより、病棟業務に大きな混乱を与えることなく運営できていること、がある。

今後も、業務の整理（棲み分け）を行い、多様な職により対応を行うことで、円滑な病院運営を行っていききたい。

1 章 病院事業計画のまとめ

3) 経営の効率化

ii) 材料費の削減

①薬品費削減

(円)

区分	H28	H29目標(予算)	H29	前年増減
値引率	14.3%	15.0%	14.5%	0.2%
後発品医薬品目割合	26.2%	30%以上	26.6%	0.4%
後発品医購入金額割合	9.8%	-	11.0%	1.2%
後発品使用量割合	81.2%	80%以上	87.0%	5.8%
医業収益比率(薬品)	13.2%	14.0%	12.4%	-0.8%
薬品費	771,871,511	(850,000,000)	728,935,985	▲ 42,935,526
医業収益	5,863,678,457	(6,081,330,000)	5,871,438,213	7,759,756

価格交渉による値引率は14.5%となり目標である15.0%は達成することができなかったが、前年より0.2%改善することができた。さらに、後発医薬品に関しては、品目割合及び購入金額割合、使用量割合全てにおいて前年を上回る結果となった。

上記のような改善が重なり、医業収益比率は目標である14.0%と比較して1.6%、前年と比較して0.8%減らすことができた結果、12.4%とすることができた。

今後も継続して後発医薬品の割合、使用量共に増やし、薬品費の対医業収益比率をさらに減らしていく必要がある。

②医療材料費の医業収益比率

(円)

区分	H28	H29目標(予算)	H29	前年増減
材料費	1,266,811,949	(1,357,700,000)	1,195,697,479	▲ 71,114,470
うち薬品費	771,871,511	(850,000,000)	728,935,985	▲ 42,935,526
うち診療材料費	485,247,170	(496,700,000)	457,804,992	▲ 27,442,178
医業収益	5,863,678,457	(6,081,330,000)	5,871,438,213	7,759,756
医業収益比率：材料	21.6%	22.3%	20.4%	-1.2%
うち薬品	13.2%	14.0%	12.4%	-0.8%
うち診療材料	8.3%	7.5%以下	7.8%	-0.5%

医療材料費の額としては、薬剤費で約4,300万円、診療材料費は2,700万円の減少となっており、医業収益が前年と変わらない中で材料費のみで約7,000万減少させることができ、純利益に十分寄与できたと考えられる。

また、材料費の医業収益比率の1.2%の減少に関しては、診療材料のSPDシステム委託のプロポーザル入札の実施による診療材料費の削減によるものが非常に大きいと考えられる。

今後も継続的に材料の価格交渉を実施し、医療収益比率を抑え利益率の向上を目指さなければならない。

1 章 病院事業計画のまとめ

3) 経営の効率化

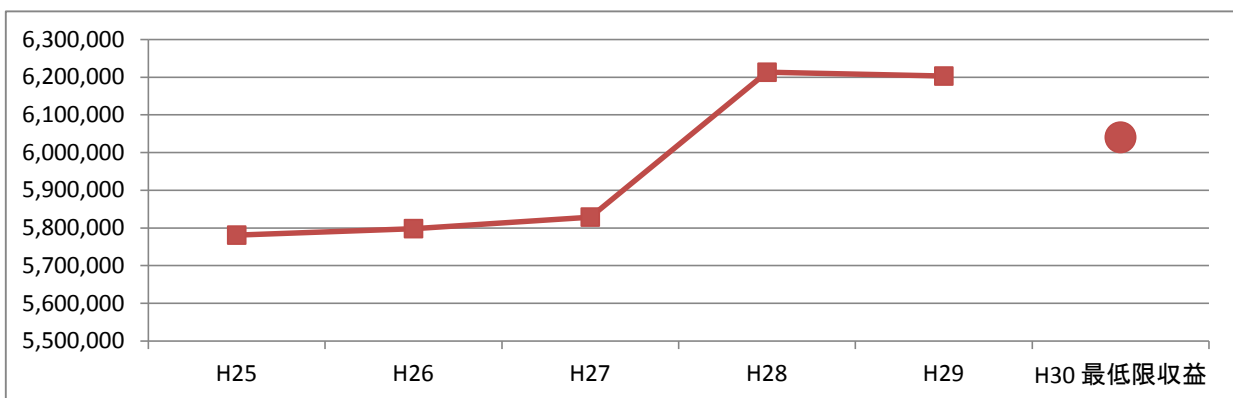
iii) 戦略的経営の実施

H30目標純利益 64,394千円

損益分岐点の分析による次年度の経常収益管理

(千円)

区分	H25	H26	H27	H28		H29	H30 最低限必要 な収益
				当院	黒字病院 (274床)		
経常収益	5,781,072	5,798,250	5,828,884	6,213,189	8,007,243	6,203,070	6,040,878
変動費	1,094,203	1,137,180	1,139,465	1,266,812	2,061,065	1,195,697	1,200,050
固定費	4,392,829	4,369,698	4,501,581	4,533,363	5,679,015	4,732,051	4,732,051
限界利益	4,686,869	4,661,070	4,689,419	4,946,377	5,946,178	5,007,373	4,840,828
経常利益	294,040	291,372	187,838	413,015	267,163	275,322	0
限界利益率	81.1%	80.4%	80.5%	79.6%	74.3%	80.7%	
損益分岐点	5,418,385	5,435,791	5,595,403	5,694,398	7,647,476	5,862,005	
FM比率	93.7%	93.7%	96.0%	91.7%	95.5%	94.5%	



過去の分析を実施した結果過去5年の限界利益率の平均は80.0%となり、翌年度以降この数字を基に上半期の決算状況等の評価、翌年度の予算作成に役立てたいと考える。

また、限界利益率が高いほうが経営的には利益が上がりやすいため、固定費の削減や変動費(率)の削減に力を入れる必要がある。なお、全国黒字病院と比較しても、約5%高い結果となり、効率的に経営ができています。

また、FM比率であるが平成27年度のFM比率に比べ本年度は91.7%と4.3%も改善し、黒字病院と比較しても利益が出やすい経営状況へなっている。

しかし、経常収益には繰入金約5億円計上されており、他黒字病院と比較しても約1.5倍増しで繰入額がある状況での経営である。その為、今後はさらに利益を増やすことができるような経営体質にする必要がある。

なお、平成30年度の目標を達成するために、経常収益6,040,878千円を必ず確保しなければならない。

【固定費】 患者の増加に関係なく必要な費用 (給与費、経費、研究研修費・・・等)

【変動費】 上記以外の患者数により増加する費用 (材料費)

【限界利益】 患者数が0人の時でも、最低限必要な金額 (経常収益-変動費) (利益+固定費)

【限界利益率】 売上高に対する限界利益の割合であり、率が高いほど利益が増加

【FM比率】 固定費の限界利益に対する比率であり、率が低いほど効率的な経営

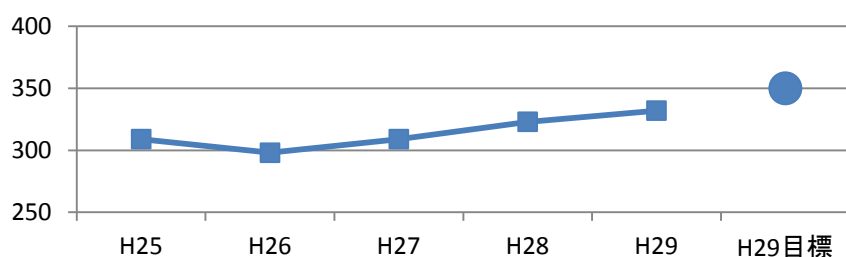
2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(1) 新規入院患者数の増加

(人/月)

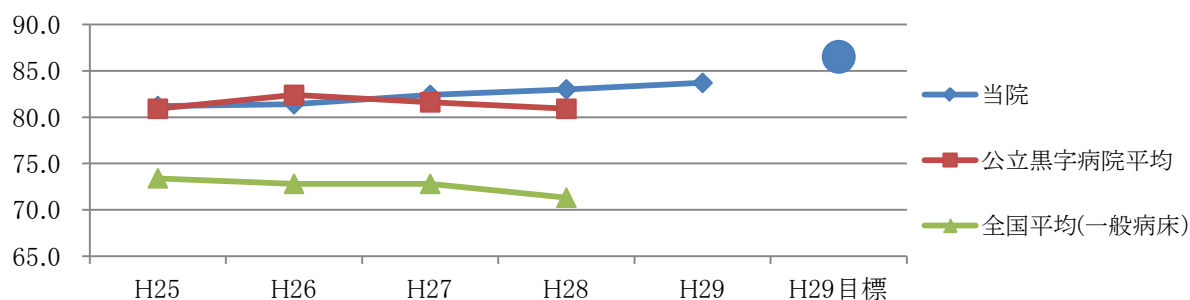
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H29目標
月平均	309	298	309	323	332	350



(2) 病床利用率 (274床)

(%)

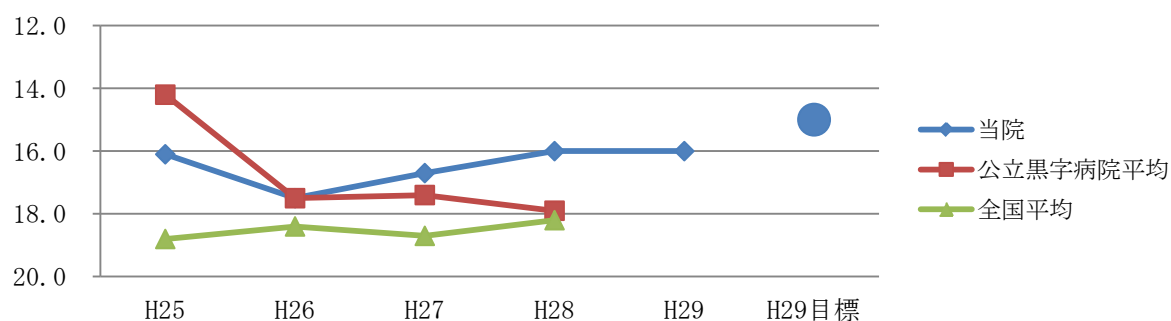
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H29目標
当院	81.2	81.4	82.4	83.0	83.7	86.5
公立黒字病院平均	80.9	82.4	81.6	80.9	-	-
全国平均(一般病床)	73.4	72.8	72.8	71.3	-	-



(3) 平均在院日数(一般病床のみ)

(日)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H29目標
当院	16.1	17.5	16.7	16.0	16.0	15.0
公立黒字病院平均	14.2	17.5	17.4	17.9	-	-
全国平均	18.8	18.4	18.7	18.2	-	-



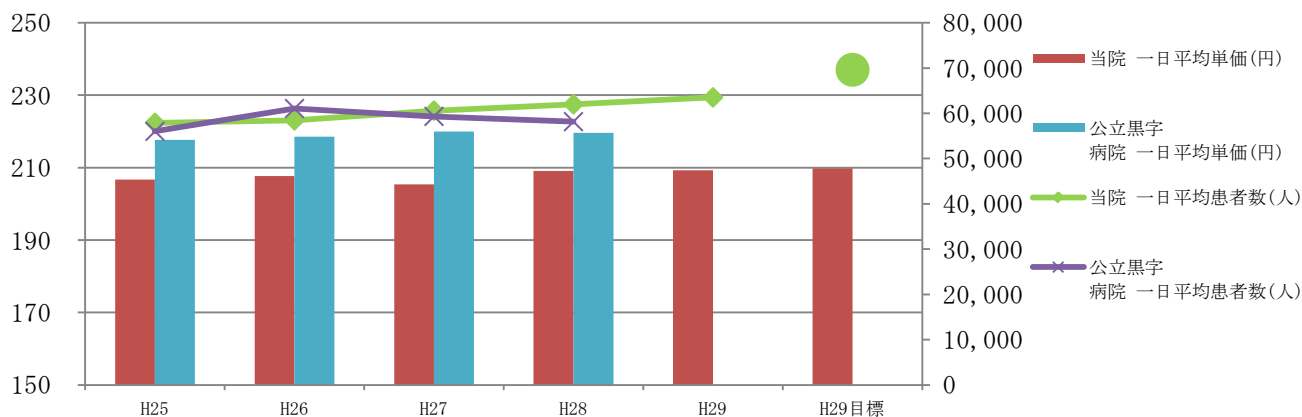
2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(4) 入院患者数等

* 公立黒字病院は274床換算

		H25	H26	H27	H28	H29	H29目標
当院	一日平均患者数(人)	222.4	223.1	225.7	227.5	229.4	237.0
	一日平均単価(円)	45,399	46,154	44,270	47,288	47,383	47,823
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	220.0	226.3	224.2	222.7	-	-
	一日平均単価(円)	54,168	54,845	55,962	55,715.0	-	-

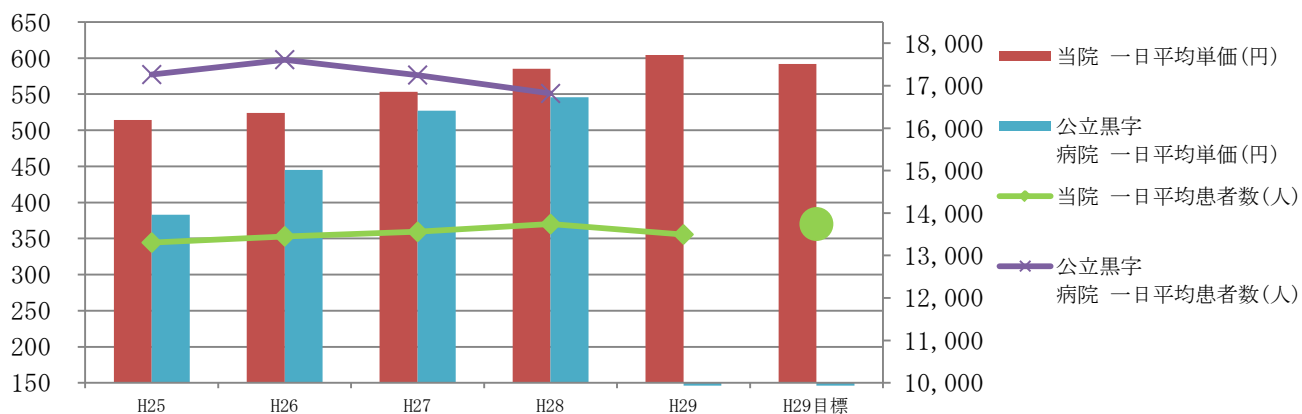


(5) 外来患者数等

* 公立黒字病院は274床換算

		H25	H26	H27	H28	H29	H29目標
当院	一日平均患者数(人)	344.4	353.0	359.3	370.0	355.6	370.0
	一日平均単価(円)	16,191	16,360	16,852	17,400	17,721	17,509
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	577	598	577	551.0	-	-
	一日平均単価(円)	13,962	15,014	16,414	16,729	-	-

* 本院の特性である医師会との役割分担(2次救急以上等)を重要視している為、患者数は少ない傾向にある。



2章 直近5年の経営実績

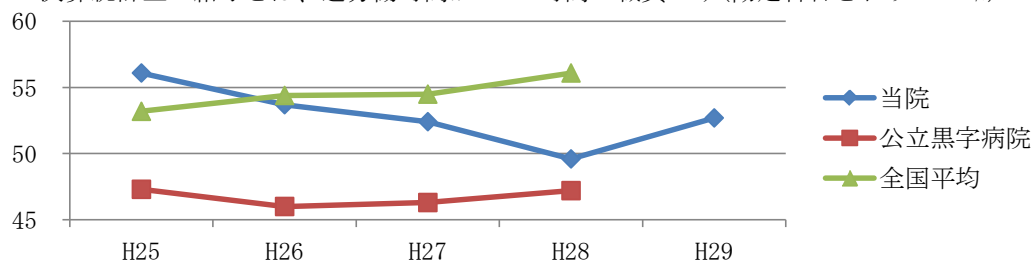
1) 主な経営指標の推移

(6) 職員給与費対医業収益比率

(%)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
当院	56.1	53.7	52.4	49.6	52.7
公立黒字病院	47.3	46.0	46.3	47.2	-
全国平均	53.2	54.4	54.5	56.1	-

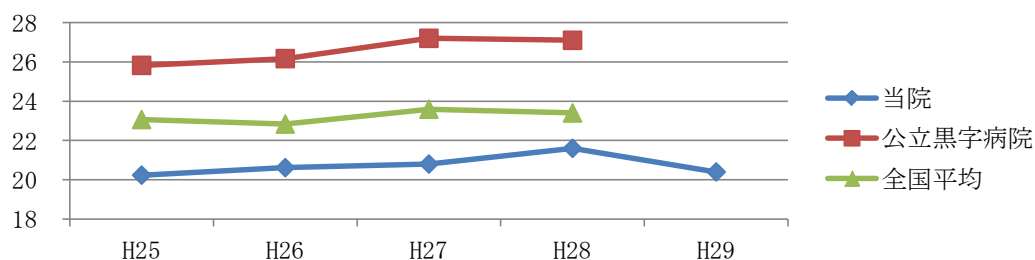
*決算統計上の給与とは、週労働時間が38.75時間の職員のみ(勘定科目とおり:57.4%)



(7) 材料費対医業収益比率 (薬品含む)

(%)

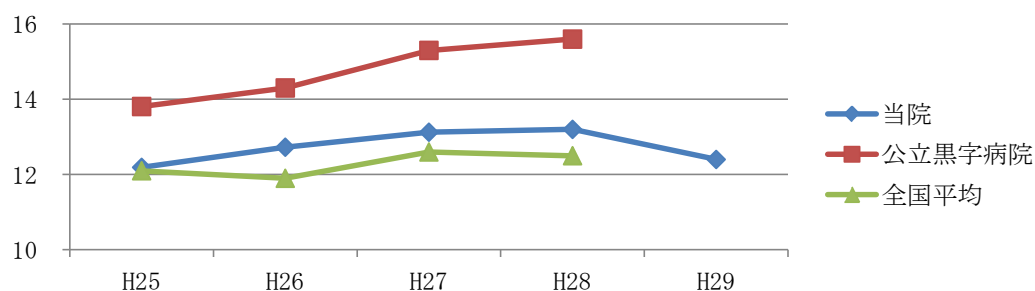
区分	H25	H26	H27	H28	H29
当院	20.2	20.6	20.8	21.6	20.4
公立黒字病院	25.8	26.2	27.2	27.1	-
全国平均	23.1	22.8	23.6	23.4	-



(8) 薬品費対医業収益比率

(%)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
当院	12.2	12.7	13.1	13.2	12.4
公立黒字病院	13.8	14.3	15.3	15.6	-
全国平均	12.1	11.9	12.6	12.5	-



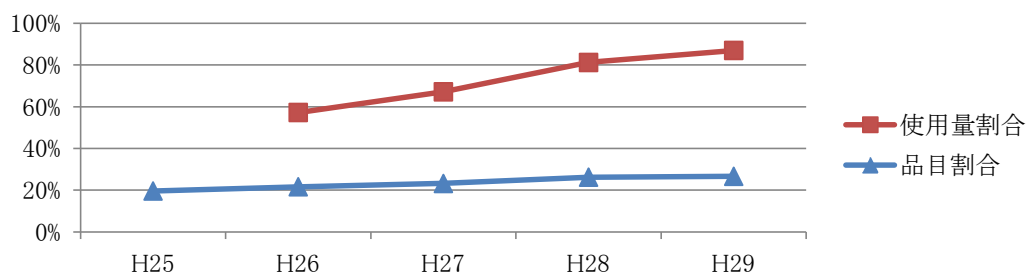
2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(9) 後発医薬品の採用品目割合

(品)

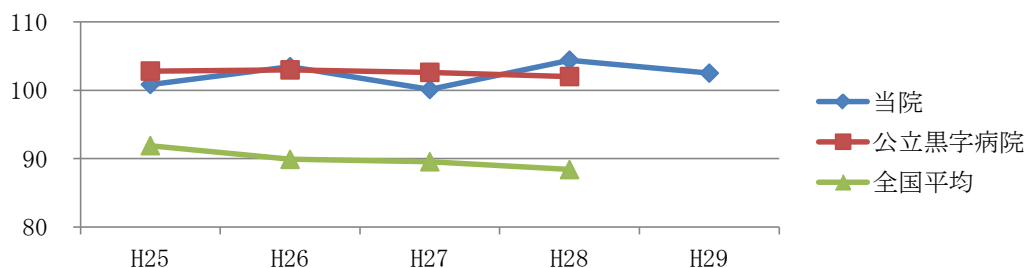
区分	H25	H26	H27	H28	H29
採用医薬品	1,664	1,646	1,574	1,575	1,562
うち後発医薬品	326	356	365	413	416
品目割合	19.6%	21.6%	23.2%	26.2%	26.6%
後発品のある先発品使用量	-	408,234	331,317	173,988	125,974
後発品の使用量	-	546,325	677,139	752,129	842,020
使用量割合	-	57.2%	67.1%	81.2%	87.0%



(10) 医業収支比率

(%)

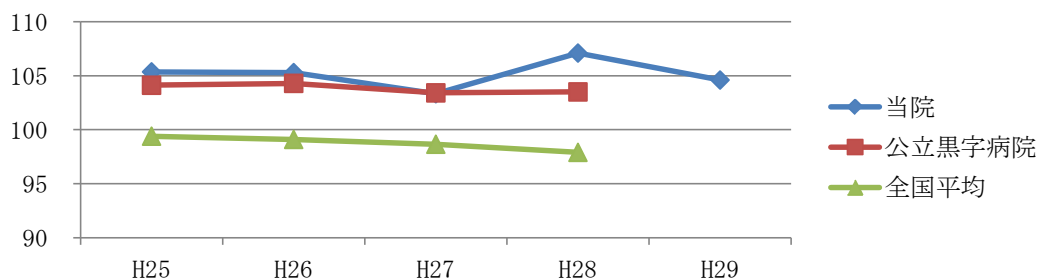
区分	H25	H26	H27	H28	H29
当院	100.8	103.4	100.1	104.4	102.5
公立黒字病院	102.8	103.0	102.6	102.0	-
全国平均	91.9	89.9	89.5	88.4	-



(11) 経常収支比率

(%)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
当院	105.4	105.3	103.3	107.1	104.6
公立黒字病院	104.1	104.3	103.4	103.5	-
全国平均	99.4	99.1	98.7	97.9	-

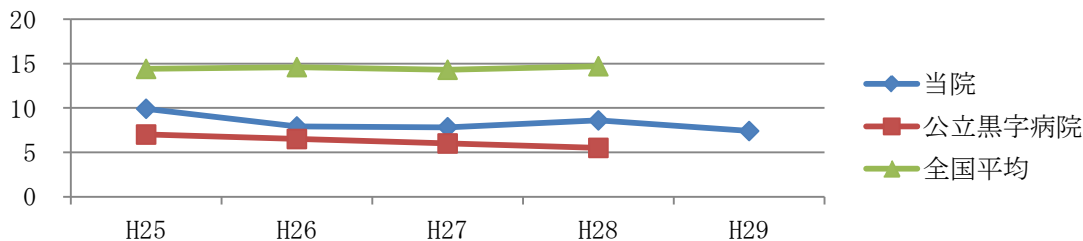


2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(12) 他会計繰入金対医業収益比率 (%)

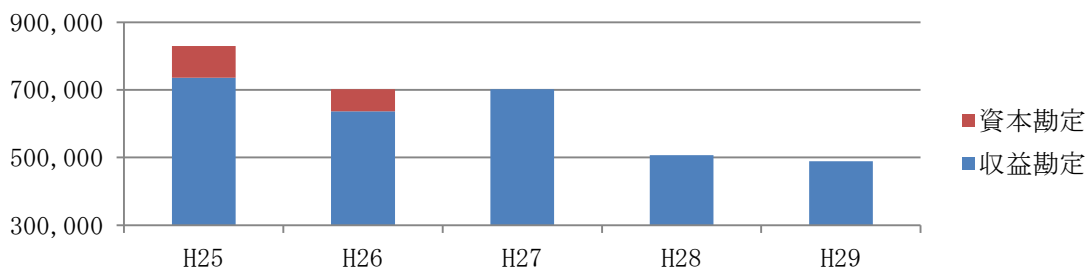
区分	H25	H26	H27	H28	H29
当院	9.9	7.9	7.8	8.6	7.4
公立黒字病院	7.0	6.5	6.0	5.5	—
全国平均	14.4	14.6	14.3	14.7	—



(13) 他会計からの繰入状況 (千円)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
収益勘定	735,732	636,616	702,147	506,961	489,390
資本勘定	93,927	65,721	0	0	0
合計	829,659	702,337	702,147	702,147	489,390

*H28年より特例債償還に伴い、特例債（約2億円）に対する繰入金の減少

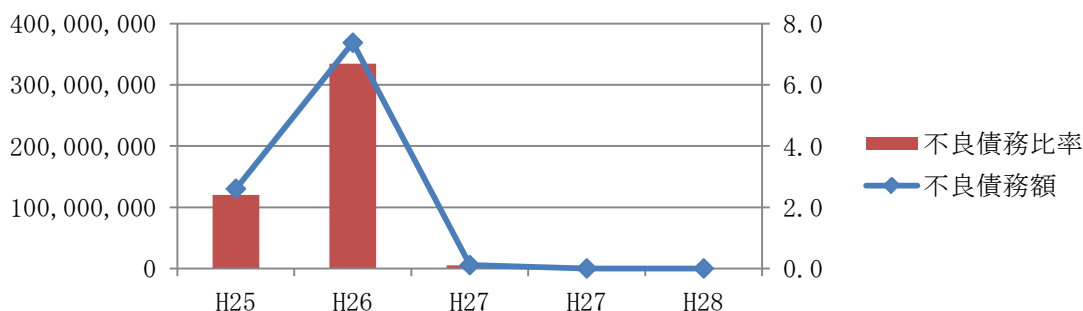


(14) 不良債務の推移 (円)

区分	H25	H26	H27	H27	H28
不良債務額	130,125,803	368,807,197	5,537,464	—	—
不良債務比率	2.4	6.7	0.1	—	—

H28で解消

*H26は、会計制度の変更に伴う増加であり、実質は減少している

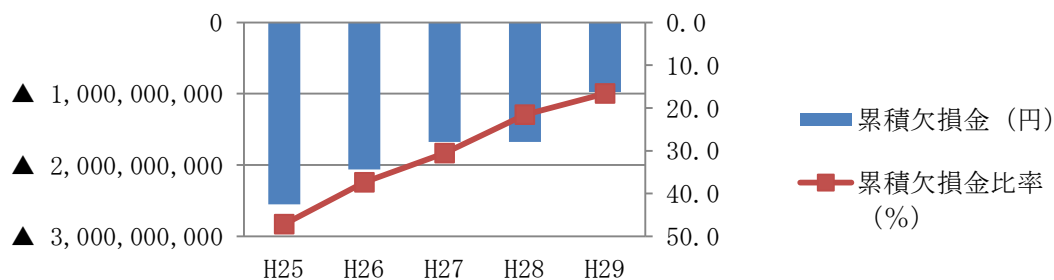


2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(15) 累積欠損金

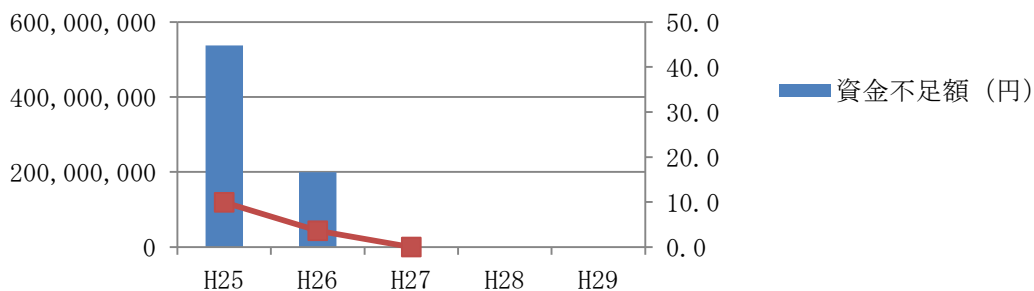
区分	H25	H26	H27	H28	H29
累積欠損金 (円)	▲ 2,550,313,460	▲ 2,061,464,181	▲ 1,674,464,687	▲ 1,674,464,687	▲ 973,547,656
累積欠損金比率 (%)	47.2	37.4	30.5	21.6	16.6



(16) 資金不足比率(地財法上)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
資金不足額 (円)	537,137,710	199,515,939	—	—	—
資金不足額比率 (%)	9.9	3.6	—	—	—

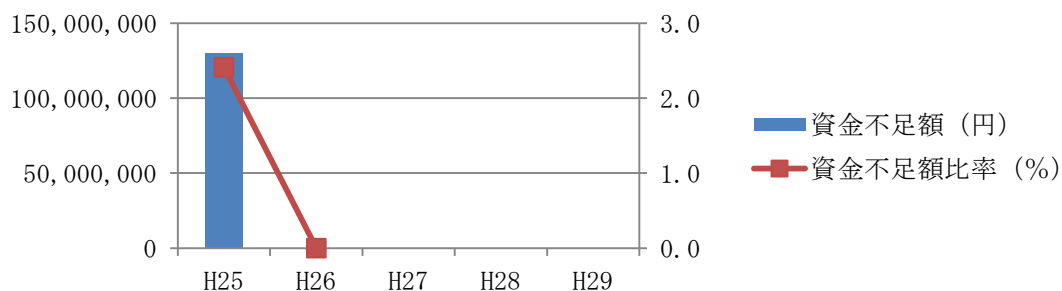
H27で解消



(17) 資金不足比率(健全化法上)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
資金不足額 (円)	130,125,803	—	—	—	—
資金不足額比率 (%)	2.4	—	—	—	—

H26で解消



2章 直近5年の経営実績

2) 診療実績

区分		H25実績	H26実績	H27実績	H28			H29実績
					当院実績	黒字病院	差	
病床100床当たり医業収益(千円)	入院収益	1,344,881	1,371,419	1,334,941	1,432,938	1,269,083	163,855	1,448,013
	外来収益	496,547	514,271	534,760	570,981	627,701	▲ 56,720	561,238
	その他医業収益	131,960	127,403	130,689	136,110	92,563	43,547	133,610
	内室料差額収益	4,477	4,354	4,674	4,524	18,830	▲ 14,306	5,005
	計	1,973,388	2,013,093	2,000,391	2,140,029	2,008,177	131,852	2,142,861
病床利用率(%)	一般	82.3	82.6	83.6	84.2	81.7	2.5	85.0
	感染症	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	81.2	81.4	82.4	83.0	80.9	2.1	83.7
1日平均患者数(人)	入院	222.4	223.1	225.7	227.5	235.2	▲ 8	229.4
	外来	344.4	353.0	359.3	370.0	581.9	▲ 212	355.6
患者1人1日当たり診療収入(円)	入院	45,399	46,154	44,270	47,288	55,715	▲ 8,427	47,383
	外来	16,191	16,360	16,852	17,400	16,729	671	17,721
平均在院日数(一般病床のみ)		16.1	17.5	16.7	16.0	17.9	▲ 1.9	16.0
医師1人1日当たり診療収入(円)		414,722	404,414	362,817	395,871	325,780	70,091	374,743
看護師1人1日当たり診療収入(円)		55,049	56,295	70,750	75,616	70,886	4,730	76,212
病床100床当たり職員数(人)	医師	13.1	12.8	13.9	13.9	20.5	▲ 7	14.6
	看護部門	看護師	77.0	75.5	74.5	84.1	▲ 10	75.5
		准看護師	3.2	0.0	0.0	2.0	▲ 2	0.0
		看護助手	9.6	0.0	0.0	7.0	▲ 7	0.0
	薬剤部門	3.4	2.9	3.6	3.6	4.7	▲ 1	2.6
	事務部門	19.0	22.2	9.5	9.5	13.8	▲ 4	9.5
	給食部門	1.1	1.1	1.1	1.1	3.0	▲ 2	1.1
	放射線部門	4.4	4.4	4.7	4.7	4.7	0	5.1
	臨床検査部門	6.8	6.4	5.1	5.1	6.1	▲ 1	5.8
	その他	11.3	14.3	17.5	17.9	11.4	6	19.7
	計	148.8	155.6	131.0	130.3	157.3	▲ 27	133.9
	事務職員	39.0	40.6	39.9	40.9	43.0	▲ 2.1	41.9
平均年齢	医師	49.0	46.4	45.5	45.9	44.0	1.9	44.9
	看護師	39.2	38.4	38.9	39.2	39.0	0.2	38.8
	准看護師	56.0	-	-	-	51.0	-	-
	医療技術員	36.1	35.3	37.1	34.9	39.0	▲ 4.1	35.2
	その他職員	-	-	28.4	31.0	47.0	▲ 16	33.3
	計	39.5	38.7	39.0	38.9	40.0	▲ 1.1	38.7

* 黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（785病院中41病院）

* 職員数については、週労働時間が38.75時間の方が対象

* 職員数【その他】：リハビリテーション科、臨床工学科、社会福祉士、精神福祉士、介護士・・・等

2章 直近5年の経営実績

3) 決算状況

区分		H25実績		H26実績		H27実績		H28実績			H29実績		
		(100床当)		(100床当)		(100床当)		(100床当)			(100床当)		
								当院	黒字病院	差			
収益 の 収 支	経常収益 A	5,781,072	2,109,880	5,798,250	2,116,150	5,828,884	2,127,330	6,213,190	2,267,588	2,260,253	7,334	6,203,070	2,263,894
	医業収益 a	5,407,082	1,973,388	5,515,874	2,013,093	5,481,070	2,000,391	5,863,679	2,140,029	2,124,800	15,228	5,871,438	2,142,861
	うち料金収入 (b+c)	5,045,511	1,841,427	5,166,791	1,885,690	5,122,981	1,869,701	5,490,737	2,003,919	1,896,784	107,134	5,505,347	2,009,251
	入院収益 b	3,684,973	1,344,881	3,757,689	1,371,419	3,657,738	1,334,941	3,926,250	1,432,938	1,269,083	163,855	3,967,555	1,448,013
	外来収益 c	1,360,538	496,547	1,409,102	514,271	1,465,243	534,760	1,564,487	570,981	627,701	▲ 56,720	1,537,792	561,238
	うち他会計繰入金 d	214,290	78,208	204,654	74,691	213,390	77,880	217,779	79,481	34,227	45,254	218,140	79,613
	医業外収益	373,990	136,493	282,376	103,057	347,814	126,939	349,511	127,559	135,453	▲ 7,894	331,632	121,034
	うち他会計繰入金 e	321,442	117,315	231,962	84,658	288,757	105,386	289,182	105,541	68,643	36,898	215,272	78,566
	経常費用 B	5,487,032	2,002,566	5,506,878	2,009,809	5,641,046	2,058,776	5,800,175	2,116,852	2,053,906	62,946	5,927,748	2,163,412
	医業費用 f	5,361,810	1,956,865	5,332,139	1,946,036	5,473,155	1,997,502	5,617,881	2,050,322	1,950,058	100,263	5,729,089	2,090,908
	うち職員給与費 g	3,035,910	1,107,996	2,960,073	1,080,319	2,872,930	1,048,515	2,908,470	1,061,485	939,216	122,269	3,094,760	1,129,474
	うち材料費	1,094,203	399,344	1,137,180	415,029	1,139,465	415,863	1,266,812	462,340	546,924	▲ 84,584	1,250,892	456,530
	うち減価償却費 h	274,700	100,255	293,819	107,233	267,362	97,577	233,975	85,392	128,130	▲ 42,738	236,284	86,235
	うち委託費	417,558	152,393	416,103	151,862	446,148	162,828	445,550	162,609	161,677	933	403,948	147,426
	医業外費用	125,222	45,701	174,739	63,773	167,891	61,274	182,294	66,531	103,848	▲ 37,317	198,659	72,503
	うち支払利息	25,560	9,328	17,802	6,497	13,179	4,810	9,872	3,603	21,123	▲ 17,520	7,142	2,607
	医業損益 (a-f) C	45,272	16,523	183,735	67,057	7,915	2,889	245,798	89,707	174,742	▲ 85,035	142,349	51,952
	経常損益 (A-B) D	294,040	107,314	291,372	106,340	187,838	68,554	413,015	150,735	206,347	▲ 55,612	275,322	100,482
	特別利益	200,120	73,036	200,084	73,023	200,447	73,156	738	269	8,227	▲ 7,958	21,667	7,908
	うち他会計繰入金 i	200,000	72,993	200,000	72,993	200,000	72,993	0	0	0	0	0	0
	特別損失	16,947	6,185	1,431,707	522,521	1,286	469	3,207	1,170	19,571	▲ 18,400	6,617	2,415
	純損益 E	477,213	174,165	▲ 940,251	▲ 343,157	386,999	141,241	410,546	149,834	195,003	▲ 45,169	290,372	105,975
	繰入前 医業損益 (C-d)	▲ 169,018	▲ 61,685	▲ 20,919	▲ 7,635	▲ 205,475	▲ 74,991	28,019	10,226		▲ 130,289	▲ 75,791	▲ 27,661
	繰入前 経常損益 (D-d-e)	▲ 241,692	▲ 88,209	▲ 145,244	▲ 53,009	▲ 373,366	▲ 136,265	▲ 154,275	▲ 56,305	▲ 588,412	532,107	▲ 274,450	▲ 100,164
	繰入金 (収益勘定) 計 d+e+i	735,732	268,515	636,616	232,342	702,147	256,258	506,961	185,022	103,477	81,545	433,412	158,180
	資本 の 収 支	資本的收入 (純計)	287,629	104,974	249,457	91,043	95,000	34,672	176,734	64,501	-	-	464,978
うち企業債		175,600	64,088	147,400	53,796	95,000	34,672	163,200	59,562	-	-	409,000	149,270
うち他会計繰入金 j		93,927	34,280	65,721	23,986	0	0	0	0	-	-	55,978	20,430
資本的支出 (純計)		962,517	351,284	720,552	262,975	590,366	215,462	474,123	173,038	-	-	669,700	244,416
うち建設改良費		206,216	75,261	185,426	67,674	104,742	38,227	177,862	64,913	-	-	410,009	149,638
うち企業債償還金		735,087	268,280	518,386	189,192	467,774	170,720	275,111	100,405	-	-	227,491	83,026
繰入金合計 計 d+e+i+j		829,659	302,795	702,337	256,327	702,147	256,258	506,961	185,022	102,870	82,152	489,390	178,609
減価償却前経常損益 D+h		568,740	207,569	585,191	213,573	455,200	166,131	646,990	236,128	334,477	▲ 98,350	511,606	186,718
経常収支比率 A÷B		105.4	—	105.3	—	103.3	—	107.1	—	110.0	▲ 2.9	104.6	—
医業収支比率 a÷f		100.8	—	103.4	—	100.1	—	104.4	—	109.0	▲ 4.6	102.5	—
職員給与費対医業収益比率 g÷a		56.1	—	53.7	—	52.4	—	49.6	—	56.9	▲ 7.3	52.7	—
他会計繰入金対医業収益比率 (d+e)÷a		9.9	—	7.9	—	9.2	—	8.6	—	15.7	▲ 7.1	7.4	—
不良債務額 (千円)		130,126	—	368,807	—	5,537	—	0	—	-	-	0	—
不良債務比率 (千円)		2.4	—	6.7	—	0.1	—	0.0	—	-	-	0.0	—
累積欠損金 (千円)		▲ 2,550,313	—	▲ 2,061,464	—	▲ 1,674,465	—	▲ 1,263,919	—	-	-	▲ 973,547	—
累積欠損金比率 (千円)		▲ 47.2	—	▲ 37.4	—	▲ 30.5	—	▲ 21.6	—	-	-	▲ 16.6	—

* 黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（785病院中41病院）

* 平成26年度より地方公営企業会計基準が変更となりましたので、適用前後で考え方が一部異なります。